

高雄地区の歴史文化遺産一覧(1)

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	もの場	こと	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説
					1	2	3	4	5	6	
1	真殿村検地帳 (付)真殿村方丈書一括 (村301点)(自治会227点)	◎		16							文禄3(1594)年以降、昭和30(1955)年代に至る長期にわたる真殿の村方丈書、中でも文禄3(1594)年の宇喜多の検地帳の存在が注目される。村方をめぐる領土の領民支配の推移をたどる資料がすべてそろっている村は、播磨においては真殿村をおいて他になく、村方資料として極めて貴重である。市指定。
2	三十六歌仙絵扇額 (付)布袋因絵馬1面	◎		16							寛文6(1666)年、浅野長直によって、赤穂の周世にある高雄山(神護寺)に奉納された6面の絵扇額である。扇額絵は藩主の奉納物にふさわしく、板面に金箔を張りつけ、その上に扇額1枚に6名づつの歌仙が濃彩によって描かれている。各歌仙がやまと絵的手法によりながら、それぞれに個性豊かな相貌で表されていることから江戸時代初期の作風を伝えるものである。市指定。
3	神護寺石造物 大石良欽寄進手洗石1基 大石良重寄進石燈籠2基(1対) 大石良雄寄進石燈籠2基(1対)	◎		16		●				●	神護寺は、寛文3(1663)年に山王権現の神宮寺として浅野長直によって再建されたと伝えられる。神護寺境内の山王神社に至る石段上にある石燈籠2基一対は寛文6(1666)年銘、社殿前には寛文6(1666)年銘、社殿前には寛文4(1687)年銘、手洗石は寛文5(1665)年銘がある。周世が赤穂城の鬼門にあたることから、浅野長直が築城工事の完成祈念等のために神護寺を再興したと伝わる。市指定。
4	水神	●		16		●				●	神護寺跡境内の山王神社前にある井戸脇に祀られている、像高42cmの半肉彫り石仏。
5	周世坂峠地蔵	●		16 27		●				●	周世坂の峠にあり、高さ185cm、像高147cm。造立年月日不明。立像、丸彫り、前座の正面には「教忍 南無阿弥陀仏 真心」左には「妙尊 妙善 惠開 義超 義良 願西」とあり、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ。前座は別の地蔵の台座である可能性がある。峠の地蔵が悪党を追い払った昔話が残る。(赤穂の昔話)
6	高雄薬師地蔵	●		16		●				●	高さ58cm、像高33cm。座像、丸彫り、台石正面には「薬師如来」、右に「明治四十(1907)年」、左に「施主大崎嘉平同人ハル」と刻む。左手に宝珠を持つ。像と台石の石材が異なる。
7	高雄切山地蔵	●		16		●				●	高さ166cm、像高90cm。立像、丸彫り。台石正面に「明治三(1870)年 南無阿弥陀仏 庚午正月日」右に「尼師良道 カロコや六兵衛 世話人 吉久喜平」左に「村中 前田弥五郎 吉久徳右エ門」と刻む。地蔵は合掌している。
8	枯木地蔵	●		16		●				●	塩屋と木津とを、結ぶ山道の頂上にある身の丈96cmの立像で、基壇等を含めると1.8mある。仏身を完全に造り出した一尊丸彫りの石仏で、右手に錫杖、左手に宝珠をもつ。慶応2(1866)年7月23日、大津屋善右衛門他8名によって建立された。かつては8月23日に地蔵盆が行われ、農作業を休んで村の代表が参る日とされていた。
9	道標地蔵	●		14 15 16 27 28		●				●	千種川沿いの県道赤穂尾根を木津井腰から400mほどの上流側に遡ったガードレール脇にある。高さ68cm、20cm×18cmを測る花崗岩製の石で、正面上部には半肉彫りの地蔵、その下に「右 城下道 左 阪越浦 下道 牛馬無用」と刻まれている。「下道」に牛馬が入ってはならないのは、城下への道の脇を流れていた水道の導水路の衛生管理のためである。別名：上河原道標地蔵。
10	六地藏(富原)	●		16		●				●	富原共同墓地内にあり、安政2(1855)年に造立された。1体のみ石材が異なる。
11	六地藏(門前)	●		16		●				●	門前共同墓地内にあり、像高61～68cmを測る。もともとは真殿門前に建てられていたが、新幹線建設に伴って移転した。
12	出口地蔵	●		16		●				●	中山地蔵ノ下堤防ノ外に安置されている、半肉彫りの立像。像高54cm。
13	釣瓶落し地蔵	●		16		●				●	真殿村の住民によって中山林谷に祀られた、明治21(1888)年造立の半肉彫りの立像。像高87.5cm。
14	迎え仏(門前共同墓地)	●		16		●				●	真殿の門前共同墓地に祀られた迎え仏。享保17(1732)年造立、像高77cmの丸彫りの立像。
15	迎え仏(目坂共同墓地)	●		16		●				●	目坂の共同墓地に祀られた迎え仏。像高160cmの丸彫り立像。
16	地蔵(稗田)	●		16		●				●	もともとは坂越にあったとされるが、明治の終わってから大正初めに工事の際に移された。像高45cmの半肉彫りの立像石仏。
17	周世黒谷刻印石	●								●	黒谷の西側尾根中腹、周世黒谷古墳より上方20mのところ不思議な刻文のある石がある。約1m×0.6mの規模の石材で、いくつかの正門に直線が貫通している図柄が複数描かれている。
18	高雄村道路元標	●		14 27		●				●	周世の八幡神社鳥居前の県道高雄有年横線脇に立つ。高さ66cm、25cm角の花崗岩製の、正面に「高雄村道路元標」背面に「兵庫縣」と刻む。
19	大避神社社記碑	●		14						●	大避神社(中山)境内にある。明治32(1889)年建立、明治初年に社殿を改築したことが書かれている。
20	大山積大明神碑	●		14						●	木津ハイランド頂上にある。建立年月日不明。
21	太子堂縁起碑	●		14						●	大正10(1921)年建立。聖徳太子による乾坤山隆魔寺の創建以来、1,337年目にあたる大正15(1926)年5月21日に刻まれている。
22	中山地蔵跡碑	●		14						●	大避神社(中山)境内にある。明治42(1909)年建立。
23	御大典記念植樹碑	●		14						●	大避神社(木津)境内にある。大正4(1915)年に在郷軍人らによって建立された。
24	梅流軒花香翁碑	●		14						●	赤穂郡中山村の人。華道教授で農業の傍ら弟子を薫陶したとある。明治33(1900)年建立。
25	室井治平先生の墓	●		14						●	真殿門前墓地内にある。江戸末期から学校創立までの間、子供たちに勉強を教えたといわれる。明治19(1886)年建立。
26	室井林助先生の墓	●		14						●	真殿門前墓地内にある。お花の先生で、その一方村の指導者として村会議員、助役、村長ならびに郡会議員など30年近く村のために活躍。事業家としてブドウ栽培、酒・醤油の販売業も手掛けた。晩年は真殿夕雲寺の僧侶となった。大正13(1924)年建立。
27	敬神表功碑	●		14						●	刻まれた文字の揮毫は大石神社の官司となっている。昭和5(1930)年建立。
28	里正大谷甚右衛門墓	●		14						●	周世墓地内にある。明治14(1881)年、周世村の村長。治水工事をして洪水から村人を守るため堤防を築くなど、村のために功績を残したことに感謝し、墓碑を立てた。
29	中原先生墓誌銘	●		14						●	建立年不明であるが、碑文の中に明治22(1889)年と刻まれており、学問に切實し数千人の弟子に教授したとある。
30	里正山本直治郎碑	●		14						●	明治39(1906)年建立、里正とは村長の意。
31	室井資吉頌徳碑	●		14						●	建立年月日不明。村の庄屋で、土木工事などの功績が刻まれている。
32	山本源左衛門墓	●		14						●	建立年月日不明。池坊流の先生の墓。
33	高雄橋銘板	●		14 27		●				●	昭和26(1951)年の赤穂鉄道廃止後、根木鉄橋は道路橋として改修された。昭和54(1979)年に新橋が架け替えられた際、現・高雄橋の南詰め付近のコンクリート柱に銘板が埋め込まれた。
34	富原遺跡	●		34						●	昭和61(1986)年のほ場整備に伴って発掘調査され、弥生時代後期や中世の土器片などが出土した。
35	真殿・門前遺跡	●		34						●	昭和40(1965)年に、山陽新幹線建設に先立って兵庫県教育委員会による発掘調査が行われ、須恵器、土師器、宋銭などが出土している。
36	真殿門前古墳群	●		34						●	集落の西側に迫る山裾から山中の雑木林の中に4基の古墳がある。このあたりの山の字名は門前奥である。門前奥の南側の谷を清水谷とよび、この谷の奥にも古墳が1基ある。この谷の入口付近にも古墳があったように、須恵器や勾玉が採集されている。古墳はいずれも横穴式石室墳。
37	真殿・林遺跡	●		34						●	真殿字林にある土器採集地。
38	周世宮裏遺跡	●		34						●	周世八幡神社の裏側にある土器採集地。
39	周世宮裏山古墳群	●		34						●	周世八幡神社の裏山斜面にあり、古墳群は27基で構成されるが、ほぼすべて小型の横穴式石室墳であることが特徴である。
40	周世黒谷古墳	●		34						●	当初、周世宮裏山28号墳と呼ばれていたが、築造時期が早く性格も異なることから別記された。遺物は、石室の入り口近くで10片以上に壊れた須恵器の破片が重なりあって出土した。
41	周世水木原古墳	●		34						●	高雄山の東、山裾に連なる民家のすぐ裏にある。墳丘の前半部は削りとられているが、後半部は残っており径は約13m。遺物がないため築造年代は明らかでないが、同じ周世の宮裏山にある群集墳に比べて著しく大きい。
42	周世・入相遺跡	●		34						●	現在の周世集落と山陽新幹線との間の沖積平野にある。県道敷設に伴って兵庫県教育委員会による発掘調査が行われ、弥生時代中期にはじまる遺跡が見つかっている。特に弥生時代後期では良好な土器群が見つかった。
43	船戸山古墳群	●		34						●	周世集落東方の山には、横穴式石室を埋葬主体とする5基の古墳がある。これらは6～7世紀前半にかけての群集墳である。

高雄地区の歴史文化遺産一覧 (2)

※視点番号は 252 頁を参照。

No.	名称	も 場 所	地域 歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説
				1	2	3	4	5	6	
44	船戸山遺跡	●	34							● 古墳時代から平安時代にかけての土器が散布する。千種川流域において貴重な資料である。
45	周世開遺跡	●	34							● 周世集落東側の山中にある土器採集地。
46	高雄・根木遺跡	●	34							● ほ場整備と公民館、体育館新築工事に伴って発掘調査された遺跡で、縄文時代後期から江戸時代までの遺物、遺構が見つかった。特に弥生時代後期の竪穴住居内の土器群や、古代の官衙に関係すると思われる均整な配置をもつ掘立柱建物群が注目される。旧千種川の護岸や旧赤穂上水道導水路跡なども確認されており、西山に守られた比較的安定した土地で、営々と集落が営まれてきたことがよくわかる。
47	木津・原遺跡	●	34							● 千種川の氾濫原及び中州の微高地に立地する遺跡。鎌倉時代以降の建物跡が見つかった。鎌倉時代の遺構として掘立柱建物跡7棟、土坑8基、溝跡1条、柱穴跡多数があり、室町時代の遺構として掘立柱建物跡10棟、土坑8基、柱穴跡多数がある。赤穂市内では室町時代の建物跡の調査例が少なく、貴重である。
48	木津・野垣内遺跡	●	34							● ほ場整備事業に伴い発掘調査された遺跡で、江戸時代頃の掘立柱建物跡が発見されている。
49	木津・段ノ上遺跡	●	34							● 弥生時代中期から始まる集落跡で、中期末の竪穴住居跡4棟、後期の竪穴住居跡4棟が検出された。また中世になると、多数の掘立柱建物跡とともに青磁、白磁などの多種多様な遺物が出土し、周辺地域との交流が活発であった集落の存在が明らかとなっている。
50	大遊神社(中山)	●	16 31 33			●				● 江戸時代、中山は尾崎の八幡宮を氏神としていたが、明治に東有年の八幡神社の氏子に変わる。明治7(1874)年5月奉納の鑑武者絵馬が一番古く、それ以前に建てられたと推定。明治9(1876)年9月17日に神前形の石灯籠が、明治32(1899)年に狛犬、玉垣が奉納されている。境内には享保16(1731)年造立の餓鬼地蔵と呼ばれる舟形後背をもつ半肉彫り石造地蔵などの石仏が見られる。
51	天満宮(真殿)	●	16 33			●				● 千種川の東側周世から有年へ通ずる道路沿いに祀られていたのを現在地に移したものである。真殿はかつて周世の八幡宮の氏子だったが、「村の鎮守の神」として天満宮を移しかえたと伝わる。
52	八幡神社(周世)	●	16 31 33			●				● 祭神は、菅田別命、息長足姫命、武内宿禰。境内には荒神社、右には火魂神と秦河勝を合祀、左には火魂神を祀るほか、土俵が設置されている。現在は毎年の秋祭りで獅子舞が舞う舞台となっている。
53	荒神社(高雄)	●	16 33			●				● 祭神は火魂神で、千種川の流れを鎮やかたにする西山の中腹にある。高雄村にとって、西山は千種川の洪水から守ってくれる堤防の役割を果たし、人々が洪水回避祈願として建立と伝わる。元は西山の南にあったといふ伝承あり。
54	荒神社(目坂)	●	16 33			●				● 祭神は素戔鳴尊、境内に稲荷社がある。かつての目坂から真殿へ通ずる山道の峠に鎮座している。真殿から峠を越えて移住してきた人々が祀ったものではないかと推測される。
55	大遊神社(木津)	●	16 31 33			●				● 明暦2(1656)年大工山の麓に建立と伝わる。皇極天皇3(644)年蘇我氏の迫害から逃れるため難波津を船出した秦河勝は、坂越に漂着後、鳥井の坂を超えて船で千種川を上り、この地に上陸したという。上陸地点に祀られているのがこの神社で、境内には稲荷神社、荒神社がある。
56	夕雲寺	●	16			●				● 真殿村民の希望により寛政11(1799)年に万福寺内の夕雲坊を移したものである。明治11(1878)年に寺号の公証が許可された。真宗大谷派で山号は播龍山。
57	安楽寺	●	16 29			●				● 安楽荘の大型寺城主安楽五郎(文安5年=1448卒)が発心し、真殿村本西門前に一坊を建てて、安楽坊と号したといわれ、現真殿門前の字名は安楽坊が在ったこと由来。寺は明応4(1495)年8月13日に道誓が開基。真言宗から真宗大谷派に改宗し現在地に移転。明治31(1898)年、平成元(1989)年の大改修を経て現在に至る。山号は佛日山。
58	専念寺	●	16 29			●				● 真宗大谷派、文亀3(1503)年、僧玄誓の開基。玄誓は俗名山名三郎左衛門時氏といひ、白旗城の戦で敗れた家来36人とともに周世に逃れて仏門に入り、草庵を結び開基したとされる。『万福寺総末寺帳并邑郡附』では天文12(1543)年開基とする。第三世玄誓が本願寺より寺号を賜った山号は一乘山。境内のイチョウは巨木で有名。明治26(1893)年に本堂再建。
59	常德寺	●	16 29			●				● 開基は文亀元(1501)年、釈順正による。万福寺下で真宗大谷派に属する。文亀元(1501)年、目坂村字清水に一字を建て、龍水寺と号す。後に真宗に改め寺号を山号にし、さらに寺号常德寺をうけ、以後現在地に移して西本願寺派に属していたが、元禄12(1699)年には東本願寺派に入った。『万福寺総末寺帳并邑郡附』では天文15(1546)年開基とする。山号は龍水山。
60	龍泉寺	●	16 29			●				● 開基年月不詳。『龍泉寺略縁起』によると文亀元(1501)年3月、住職の教祐は高野村田端にあった釈善寺が零落するにつけ、壇頭平松三郎左衛門と村内の郷士とで相談し、真宗大谷派への改修の旨を本願寺第9世實如上人に届け、木津村の柳地区に一字を建てたといふ。現在は手能に移転。万福寺の末寺。山号は七ヶ山。境内には石造地蔵(像高78cmの丸彫りの坐像地蔵)がある。
61	神護寺跡	●	16 29 32			●				● 周世集落の西方山頂にあり、文治2(1186)年、文覚が開創。『播磨鑑』によると同寺を天台宗の寺として天平神護の元号(765～767)にちなんで寺号が付けられ、和気清麻呂が建立したとある。その後、豊臣秀吉の中臣国俊が兵火にかかり、後年に再興されたと伝わる。浅野長直寄進の扁額、大石良欽寄進の手洗石の他、大石内蔵助良雄寄進の石灯籠などがある。山号は高雄山。内には昭和7(1932)年に造立された半肉彫りの立像石仏がある。
62	太子堂(木津)	●	16			●				● 旧大工村の東の堤防のすぐ下にある。境内には大正11(1922)年に奉納された太子堂縁起を書いた神がある。境内正面には太子堂が建てられており、壁を隔てて北側に観音堂(護摩寺)があるほか、本堂の東側には稲荷社が祀られている。創建は寛文2(1662)年で龍泉寺の支坊となっている。
63	富原停車場跡	●	14 27 30			●	●	●		● 大正10(1921)年に播州赤穂一有年間に結ぶ軽便鉄道が開通した。富原駅跡は真殿駅間1.5km、有年駅間2.3kmの停車場で、乗客がある場合にのみ列車が停車していた。駅舎は無人で、待合所のみ簡便な建物であった。
64	真殿駅跡	●	14 27 30			●	●	●		● 大正10(1921)年に播州赤穂一有年間に結ぶ軽便鉄道が開通した。真殿駅は乗客の乗り降りの駅ではなく、蒸気機関車に給水したり、石炭を積み込むための駅であった。駅舎は本屋と便所のほか、設置軌道脇に給水場としての貯水槽が設置されていた。
65	周世停車場跡	●	14 27 30			●	●	●		● 大正10(1921)年に播州赤穂一有年間に結ぶ軽便鉄道が開通した。周世駅は根木駅間0.8km、真殿駅間1.5kmの停車場で、乗客がある場合にのみ列車が停車していた。駅舎は無人で、待合所のみ簡便な建物であった。
66	根木駅跡	●	14 27 30			●	●	●		● 大正10(1921)年に播州赤穂一有年間に結ぶ軽便鉄道が開通した。根木駅は駅長が常勤していた。ここから千種川を渡った山樞に線路が通っていた。
67	根木鉄橋基礎跡	●	14 27			●	●			● 赤穂鉄道が千種川を渡る時に設置されていた鉄橋の石造基礎跡。
68	目坂停車場跡	●	14 27 30			●	●			● 大正10(1921)年に播州赤穂一有年間に結ぶ軽便鉄道が開通した。目坂駅は坂越駅間1.8km、根木駅間1.1kmの停車場で、乗客がある場合にのみ列車が停車していた。この駅から根木駅にかけて登り坂となり、しばしば列車が立ち往生した。
69	切山隧道	●	15 28			●	●			● 切山隧道は赤穂上水の水路の基点で、池田輝政時代、慶長19(1614)年から3年の歳月をかけた、時の代官垂水半左衛門勝重の指揮のもと完成。その後、取水口は高雄の船渡井堰に変更され、さらに元禄15(1702)年までには木津取水井堰に変更された。隧道は昭和38(1963)年に拡幅や出入口の強化等の改修工事が行われた。
70	高雄川壟道	●	15 28			●				● 昭和51(1976)年の豪雨災害を受けて実施した河川改修事業の一環で、昭和60(1985)年に完成した。切山隧道の水量拡大のため隧道の拡張が兵庫県によって計画されたが、赤穂市が旧赤穂上水道関連施設の保存を図っていたことから、計画を変更して切山隧道に隣接して新たに高雄川壟道を築いたもの。
71	高雄船渡取水井堰	●	14 15 28			●	●			● 旧赤穂上水道の取水口は、浅野時代は切山隧道から高雄船渡へと移動した。千種川護岸に築かれていた高瀬舟の船渡を活用し、水を引き入れて旧赤穂上水道の取水口としたものである。今も千種川の中に散乱する井堰の石を見ることができ。
72	木津取水口・取水井堰	●	14 15 28			●	●			● 旧赤穂上水道の取水口は、元禄15(1702)年までには木津へと変更されていた。ここでは水を一部堰き止めて西側に取水し、浜市の山樞まで導水されていた。高瀬舟の通行の妨げになることから、一部の堰を開けていたという。
73	導水路跡	●	15 28			●	●			● 地下1.5mのところから木津取水井堰と旧赤穂上水道とを結ぶ導水路跡が見つかった。導水路は幅約5mを測り、4段の石垣(深さ約1m)によって護岸されていた。
74	悪水路との交差	●	15 28			●				● 木津取水井堰から導水された上水と周辺の農業用水(悪水)が交差する地点で、この上水は城北下の戸島橋まで山樞を流れていた。
75	三ヶ村の樋跡	●	15 28			●	●			● 上水道の取水口が高雄船渡から木津に変更されると、それまで木津井堰から取水していた浜市・砂子・北野中への農業用水は高雄取水井堰からの導水路に接続され、「三ヶ村の樋(溝)」と呼ばれるようになった。

高雄地区の歴史文化遺産一覧 (3)

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	もの場	こと	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説
					1	2	3	4	5	6	
76	猪垣と坊主開き	●		16	●						段々畑の四方を石垣で囲み、集水施設・貯水池・井戸などが見られる。この地を「坊主開き」と呼び、高雄山神護寺の僧侶が菓草園として開拓したものと伝える。
77	周世坂峠	●		16 27 32 35	●	●					赤穂市南部より有年へ通じる陸路で、かつては川沿いではなくこのルートが主要道だったという。峠に地蔵が安置されている。
78	大工村	●		14	●						旧集落名。18、19世紀頃、赤穂城下の大工とは別に堂宮建築を得手とする、独立した大工集団が木津に集まっていた。木津大工の構成については『永富家住宅普請帳』に詳しい。現在は太子堂が江戸中期の様式を保ち、小さいながら凝った造りで、その歴史を偲ばせている。
79	釣瓶落しの滝	●		16	●	●					真殿・中山林地帯から大津へ通ずる山道を1.2kmあまり登ると、2段になった約8mの滝がある。滝の上には明治21(1888)年5月に真殿・中山の世話方、室井定四郎と前田弥四郎が寄進した地蔵尊が祀られている。
80	ハマウツボ自生地	●		16	●	●					高雄地区を流れる千種川流域一帯は、水辺の風景だけでなく、河川敷や湿地・氾濫原など、自然度が高く、護岸工事された河川流域では見ることができない動植物が生息し、貴重な生態系が保持されている。ハマウツボは兵庫県レッドデータブックでは絶滅危惧種ランクAに指定されている。高雄地区には自生地があり、地域での観察会や学習会が実施されている。
81	赤穂ふれあいの森	●		16		●					有年横尾の駿行寺から周世の神護寺跡までを含む約180haの森林区域。シイ・アカマツ・コナラ・シリカガシといった植物を見ることができ、遊歩道、休憩所、展望台やキャンプ場などが整備されている。神護寺近くにはロッジ「高雄山荘」、モリアオガエルのいるひょうたん池、シイ林、ヒノキ林があり、森林散策を楽しめるようになっている。
82	赤穂市統合取水井堰	●		15 28	●						かつて農業用水は村ごとに引かれていたため、その権利をめぐる対立が起こるなどしていた。昭和42(1967)年に中山に赤穂市統合取水井堰ができ、ようやく解消された。
83	山陽新幹線	●		27	●	●					昭和47(1972)年に新大阪一岡山間が開業した。
84	山陽自動車道	●		27	●	●					昭和57(1982)年に開通した。なおインターチェンジ設置の際に調査されたのが堂山遺跡である。
85	中山	●		32		●					地名。中世は有年庄に属し、はじめ尾崎の八幡宮の氏子であった。村の北端にある鍋子城(中山城)は赤松満祐の一族岡豊前守らの居城で、城郭の井戸には壺水が湧くという。
86	周世	●		32 36		●					地名。周世の地名は『和名類聚抄』に周勢(須世)と初出する。
87	真殿	●		32 36		●					地名。13世紀に土豪真殿氏が住んでいた。背後の山には5基の古墳があることから、地名の起源はその数世紀も以前であろう。この土地が古代～中世は周世郷に属していたことは『周世郷真殿村』と『文禄検地帳』に記載されていることからわかる。
88	門前	●		36		●					地名。門前の名は15世紀の初めに大聖寺城主安室五郎義長が背後の山裾に安楽坊を建立していたことによる。
89	高雄	●		32 36		●					地名。鎌倉時代の僧文覚の開基と伝える高雄山神護寺に由来する。江戸時代は根木村といったが明治維新以後、周世村と合併し立巖村となった。明治22(1889)年には目坂、木津、真殿、中村の各村と合併して高雄村となった。
90	根木	●		32 36		●					地名。根木のおこりは昔、周世八幡神社の神官(禰宜)の居住地から変化したものと推測される。
91	目坂	●		32		●					地名。古い昔の交通は、奥の谷から大谷平へ峠越えであったので、木の芽(目)と峠の(坂)より目坂となった。
92	木津	●		27 32 36	●	●					地名。木津の字源から木の集散港の意で、千種川河口の材木集散地であった。大工山・奥山から材木を伐り、積み出したのであろう。自然堤防ができてから、平地に移り住んだところに大工村・手能(手斧)の名が残る。
93	立巖	●				●					地名。たていわ、りゅうがん。千種川の流れを遮り立ちだかる岩山のようなあり、深淵・奇岩・老松の景勝地であった。大正時代頃には絵葉書にも写真が使われていた。現在の高雄小学校の前身である立巖小学校の由来にもなっている。
94	タデの原風景	●		16	●	●					赤穂の語源は、タデの花が咲く様子を赤い穂に見立てているとの説がある。千種川河川敷に広がるタデの群生地。
95	輪中集落	●		16	●	●					現在の高雄集落は、千種川の堤防に囲まれた景観を見せている。
96	神護寺跡周辺からの眺め	●		16		●					南を臨むと、千種川とそれに寄り添う集落、新幹線が見渡せる眺望が得られる。
97	荒神社(高雄)からの眺め	●		16		●					北を臨むと、山、千種川、新幹線の広大な眺望が広がる。
98	新幹線スポット	●		16 27		●					山陽新幹線の撮影スポットからは、千種川や高雄地区を一望でき、眺望が良い。